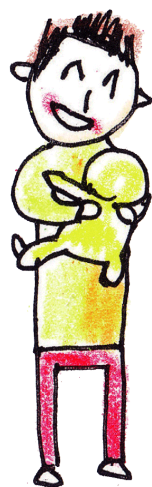


第2回 懇話会における 構成員の主な意見



＜主な意見＞ 北九州市が目指す姿①

- ① 「にこにこスイッチ」という言葉がすごくインパクトが強い素敵な言葉。
「市民全員で「子ども」と「子育て家庭」を全力応援する」という方向性とうまくミックスできたらいい。
- ② 「まち」とか「市」を主語にしてしまうと当事者意識を持ちづらい。 自分事として捉えられるような表現がいい。
- ③ 話しかけるような言葉にすると、もっと人の心に入っていく。 「私そうだっけ」とか「できるかな」みたいな言葉になって発信すると、より浸透すると思う。

<主な意見> 北九州市が目指す姿②

- ④ 一人で子育てをしている方や、孤独感を感じている方がいる。北九州市が、身近に誰かがいるという安心感があるまちになったら素敵だと思う。
- ⑤ 「しよう」と宣言してしまうと、どうしても上下関係が見えてくる。
子どもをあたたく見守るまちになりたい、などの表現がいい。

- ▶ 「にこにこスイッチ」と「北九州市全体で子どもや子育てを応援」という方向性を、前文で記載する。
- ▶ 主語を「自分」とし、話かけるような表現とする。



<主な意見> 実現するためのアクション①

- ① 聞いた人が「自分も何かしよう」など、プラスに前に進める言葉がいい。
- ② 「子ども目線」という言葉が少し硬いが、子どもと同じ目線に合わせるのは大事なこと。
- ③ 「叱る」ことを肯定すると、解釈によっては愛があるならいいとなってしまうので、避けた方がいいのでは。
- ④ 子育て中の方以外も見るので、あまり子育てに大変感を出したくないが、子どもが泣いている時に、「大丈夫ですよ」と言ってもらえるとすごく心が軽くなった。

<主な意見> 実現するためのアクション②

- ⑤ 大人と子どもや、その周囲の方など、お互いが双方向で享受するような表現がいい。
- ⑥ 「(仮称)子ども憲章」を全部読んでもらうために、まず目を引くキャッチコピーがある。デザイン的なかっこいいものがいい。

▶ タイトルは、「北九州にここにスイッチ！」とする。

▶ いただいた意見を踏まえ、アクションを修正【資料2】

